

## 第2回西アジア分科会議事録

開催日時:平成18年11月16日(木) 13:30-17:00

場 所:東京文化財研究所 4F国際研修室

出席者: 分科会委員(前田、岡田、西秋、上岡、高橋、八尾師、)、文化庁(勝平)、外務省(関・守山・細川)、国際交流基金(片山)、東文研(永井・青木・山内)、事務局(豊島、延近、田代)

欠席者: 分科会委員(入澤)

---

### 1. コンソーシアム事務局について / これまでの経緯 [青木]

### 2. 現況報告 [国士舘大学イラク古代文化研究所 岡田教授]

[報告]

- イラクとその周辺諸国に関する現在の文化遺産保存状況
- イラク文化遺産復興支援に関しては、JICAがその支援についての会議を開催後、ヨルダンにおいての人材養成を企画した。結果、ヨルダン政府が遺跡を提供しての人材養成のプログラムがある。2005年春から人材養成が年に2回程度開始されている。
- イラクにおける世界遺産、特に危機遺産登録に関する経緯と現状
- イラク文化遺産復興支援を通じた日本の役割

【コメント1】

・イランのバムの復興については、日本の環境省の援助プロジェクトも治安状況が悪いということで、保留されている。しかし、イランの世界遺産熱については、イランの大統領から聞いたことがある。

→ イランはこの数年、毎年1箇所ずつ世界遺産登録を果たしており、その積極性は注目するところである。

【報告に対する補足コメント】

・イラク関係で、文化遺産国際協力センターが関わっているものは、2003年に文化庁主催のイラク復興ユネスコ会議があったが、その時にイタリア側と日本側で協力分野を重複しないようにすることになった。日本はバクダッド博物館の修復ラボ整備と人材養成の担当となり、2004年から研修が始まっている。2005年には、機材供与もしている。文化遺産国際協力センターは研修生を2004年に2名(文化遺産国際協力センター予算)、2005年にも2名(ユネスコ

日本信託基金)、2006年には、文化遺産国際協力センター予算で2名、ユネスコ日本信託基金で2名が、来日して主に考古資料の保存について研修を受けている。

・国士舘大学はJICA負担でイラク人学生を1名、修士課程で受け入れる予定である。

#### 【議論まとめ】

・支援する機関間の連携が重要ではないか。イラクの人材養成については、積極的に具体的な提案ができるような場を設けていかなければならない。

・日本においては、政府レベルから提案していくことも大事だが、文化遺産の保存のような事業がもっと国民のレベルで共有・認識されるべきだと思う。英国では、いろいろな情報が出版されているし、HP上でも文化遺産についての情報があふれている。日本でも世界遺産申請書類など、いろいろな文書を公開していくべきであると思う。

・世界遺産登録の情報などについては、文化庁では、WEB上で公開する予定がある。コンソシアムでも情報を民間に還元するというので、情報は公開していく。

### 3. アフガニスタン国立公文書館所蔵文字資料の調査・整理・保存作業についての報告 [東京外国語大学 八尾師教授]

#### [報告]

- アフガニスタン公文書館の文字資料調査・整理・保存作業プロジェクト経緯と現在の状況
- 日本への招聘人材養成プロジェクトの実施(2006年)

・利害が絡んでいるイギリス、ロシア、パキスタン、イランなどの動きはどうか？

→2004年に協定を結んでから3年間のうちにいくつか海外から公文書館へのコンタクトはあった。まず、最初にフランスがアプローチしてきたが、予算的問題があるようで動きはない。アメリカは物品を供与している。イランも、関心を持っている。アメリカ、フランス、イラン、ロシア、パキスタン、インドも関心をもっているようだが、それらの国々に対してアフガニスタンは警戒をしている。最近では、チェコから、アフガニスタンの最古新聞である「シャムソンナハール」の写真がほしい、とやってきたらしい。

・作業をしてくれる人を直接雇用しているのか。

→直接かかわるセクションは歴史資料部門であり、そのスタッフと仕事をしている。そこで、ス

スタッフへ賃金を払う必要が当然でくるが、その部門だけの人に賃金を払うのも問題がでくる。

・外部から雇用するのはどうか？

→非常に難しい。内部のスタッフを雇用せざるをえない。現在は、実際に仕事をしてくださった人だけにお金を払うという体制は、内部の軋轢を生む可能性がある。今回は公文書館全体に対して、賃金を払った。それ以外に実際に仕事をしている人には、別途お金を払っている。

#### 4. バーミヤーン報告[東京文化財研究所 地域環境研究室 山内室長]

[報告]

- バーミヤーン第7次ミッション報告(9月13日～10月10日)として、壁画保存、人材養成ワークショップの実施、建築調査、考古学調査の報告
- [壁画]I窟とNA窟における壁画の保存活動(接着と洗浄)
- [人材養成ワークショップ]考古発掘作業の講義・研修(現場研修と室内作業)
- [考古調査]4箇所が発掘実施。
- [建築調査]石窟の状況把握調査報告

・今回イタリアの方が参加したのは、信託基金のドイツとイタリアの役割分担とはべつに参加したのか？

→壁画保存事業の際に文化財研究所が独自に雇用したもので、イタリアの機関とはどこも関係なく個人の修復家として参加してもらった

・発掘してきた遺物の調査研究はどう進んでいるのか。

→遺物の整理については、19年度集中してやり、なるべく早い段階で成果を公表するつもりである。

#### 5. 企画分科会・東南アジア分科会報告 [事務局]

#### 6. コンソーシアム決定事項報告 / ロゴ・WEBなど [事務局]

#### 7. コミュニティーサイトの使用説明 [事務局]

使用方法のガイドやユーザーID、パスワードについては、11月末に郵送にてご案内する。

## 8. その他 / 今後の日程や総会についてなど

次回、第3回西アジア分科会は、1月26日午後1時半～から開催。(事務局注:その後、15時スタートに変更)

・1月16日の総会では各分科会の報告をどうするのか。

→事務局が行う事業報告にいれて行う。

・シンポジウムは総会も含むのか？

→規約上総会をしなければならないことになっており、内容としては、事業報告と来年度事業予定をご了解いただく形になると思う。それをシンポジウムとあわせてやることを考えている。

また、総会前に打ち合わせの必要がある場合、メールなどで連絡をしたい。